

# 教育委員会事務に係る点検・評価報告書

令和元年度（平成30年度事業対象）

令和元年12月

東金市教育委員会

## 【目次】

第1章	点検・評価の対象・方法	1
第2章	教育委員会の諸活動	2
1	教育委員の活動実績	2
(1)	総合教育会議	2
(2)	教育委員会会議の開催状況	2
(3)	教員委員の研修・行事への参加及び学校訪問	4
第3章	重点施策ごとの取組状況	5
1	東金市の基本理念	5
2	東金市教育振興基本計画の施策体系	5
3	教育委員会事務に係る点検・評価	7
	【学校教育・家庭教育の柱】	7
	【生涯学習・歴史文化の柱】	34
	【スポーツ振興の柱】	48

# 第1章

## 点検・評価の対象・方法

### 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、すべての教育委員会は、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

東金市教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を実施し、報告書を作成しました。

### 点検・評価の対象

東金市教育振興基本計画『未来へつなぐ 教育のまち東金の創造』の中で掲げた、重点施策に対する事務事業の取組内容を対象として点検・評価を行いました。

### 点検・評価の方法

点検・評価に当たっては、基本構想である東金市第3次総合計画をもとに、本市の目指すべき教育の姿と取り組むべき施策の方向性を示した東金市教育振興基本計画（平成28年度～令和2年度）の重点施策ごとに取組内容を評価し、定めた目標（値）の達成状況を明確にするとともに、今後の課題等に対する取り組みについて検討しました。

また、学識経験を有する外部有識者からの意見を聴取し、知見の活用を図りました。

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

東金市教育振興基本計画の進行管理は、PDCAサイクル※に基づき行い、その結果、社会情勢の変化や事業の推進状況等を勘案し、必要に応じて適宜見直しをしています。

※PDCAサイクル Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことで、継続的に改善を図る仕組み。

## 第2章

### 教育委員会の諸活動

#### 1 教育委員の活動実績

##### (1) 総合教育会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日に施行されたことに伴い、市長と教育委員会が協議・調整する場として総合教育会議が設けられました。平成30年度の開催状況は以下のとおりです。

開催日 平成31年1月23日

議 題 (1) 児童・生徒の長欠対策について

##### (2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月1回、教育委員会会議（定例会）を開催しています。

平成30年度は定例会を12回、臨時会を1回開催し、教育委員会の事務執行に関する事項等について審議等を行いました。

###### 【定例会開催日】

4月25日、5月24日、6月21日、7月20日、8月21日、9月20日、  
10月23日、11月20日、12月20日、1月23日、2月22日、  
3月20日

###### 【臨時会開催日】

3月7日

教育委員会会議における審議案件等の一覧

人事関係14件、条例・規則関係3件、その他8件、合計25件の議決を行いました。

議決事項	
区 分	件 名
人事関係	①東金市スポーツ推進委員の委嘱について
	②東金市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
	③教科用図書山武採択地区協議会委員の推薦について
	④東金市教育研究所職員の委嘱について
	⑤山武地方児童生徒結核対策委員会委員の推薦について
	⑥東金市立幼稚園長の任免について

	⑦学校医の委嘱について
	⑧学校歯科医の委嘱について
	⑨学校薬剤師の委嘱について
	⑩東金市社会教育委員の委嘱について
	⑪東金市家庭教育指導員の任命について
	⑫東金市文化財審議会委員の委嘱について
	⑬東金市公民館運営審議会委員の委嘱について
	⑭東金市図書館協議会委員の委嘱について
条例・規則関係	①教科用図書山武採択地区協議会規約の承認について
	②東金市要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正について
	③東金市立幼稚園預かり保育実施運営要綱の一部改正について
その他	①使用教科用図書の採択について
	②東金市立幼稚園の園児募集について
	③東金市教育委員会教育功労者の顕彰について
	④教育委員会事務に係る点検・評価報告書について
	⑤東金市教育委員会児童・生徒表彰について
	⑥区域外就学の指定について
	⑦東金市学校教育指導の指針について
	⑧児童の就学指定変更について

下記の事項を教育委員会会議で協議しました。

協議事項
①行事の後援について
②教育委員会事務に係る点検・評価報告書について

### (3) 教育委員の研修・行事への参加及び学校訪問

教育委員は、教育委員会会議の他に、研修や行事に積極的に参加し、教職員や他市町の教育委員、また市民や児童・生徒、保護者と意見交換するなど現状や課題の把握に努めました。

参加日	研修・行事等
4月23日(月)	山武地区教育委員会連絡協議会 理事会・表彰者選考会(春)
5月16日(木)	山武地区教育委員会連絡協議会 総会・教育功労者表彰式(春)
5月22日(火)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 定期総会
5月23日(水)	北中学校、源小学校訪問
5月31日(木)	鶉嶺小学校訪問
6月14日(木)	豊成小学校訪問
6月21日(木)	東中学校訪問
9月10日(月)	丘山小学校訪問
9月28日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会 理事会・表彰者選考会(秋)
10月7日(日)	東金市民体育祭
11月1日(木)	山武地区教育委員会連絡協議会 教育功労者表彰式(秋)
11月1日(木)	山武地区教育委員会連絡協議会・山武地区教育長協議会合同研修会
11月1日(木)	山武地区教育委員会連絡協議会 情報交換会
11月3日(土)	東金市文化・芸能大会
11月15日(木)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 第1回教育長・教育委員研修会
11月20日(火)	東金市教育委員会教育功労者表彰式
1月22日(火)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 第2回教育長・教育委員研修会
3月7日(木)	東金市教育委員会児童・生徒表彰式

## 第3章

### 重点施策ごとの取組状況

東金市教育委員会では、平成28年3月に策定しました「東金市教育振興基本計画」をもとに重点施策について点検・評価を行い、その取組状況について教育委員や学識経験者からの意見等をまとめました。

#### 1 東金市の基本理念

##### 未来へつなぐ教育のまち東金の創造

歴史と伝統のある私たちの東金。

学校・家庭・地域が連携し、人を思いやり、人と人とのつながりを大切にする豊かな人間性を育みます。

夢や希望の実現に向け、自ら学ぼうとする意欲をもって、心身ともに健やかに、生涯にわたり学び続けられる機会の充実を図ります。

#### 2 東金市教育振興基本計画の施策体系

基本方針	基本目標	重点施策
【学校教育・家庭教育の柱】 生きる力を育み、総合的な人間力をもった子どもたちの育成	1 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、思考力や表現力の向上を図る	(1)確かな学力の育成
		(2)特別支援教育の推進
		(3)情報教育の推進
		(4)国際教育の推進
	2 自他を思いやり、豊かな心を育成する	(1)いじめ対策の推進
		(2)生徒指導の充実 (長欠・不登校解消に向けた取り組みの充実)
		(3)道徳教育の推進
	3 健やかな体を育成するとともに、体力の向上を図る	(1)学校体育の充実
		(2)健康教育の充実
		(3)食育の推進
	4 家庭・地域・学校の連携を強化する	(1)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進
		(2)学校評価の充実

		(3)家庭・地域の教育力の向上
		(4)学校施設の整備・充実
<b>【生涯学習・歴史文化の柱】</b> 生きがいをもって学び、ふるさとに誇りをもてる人づくり	<b>5</b> 人づくりから始まる生涯学習の推進を図る	(1)多様な学習機会の提供
		(2)青少年健全育成の推進
		(3)公民館事業の充実
		(4)図書館事業の充実
		(5)城西国際大学との連携
	<b>6</b> 歴史・文化を活用した地域力の向上を図る	(1)芸術文化団体活動の推進
(2)郷土の歴史と文化の保存、活用		
(3)文化施設の利用促進		
<b>【スポーツ振興の柱】</b> 健やかで活力に満ちたライフスタイルの支援	<b>7</b> 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図る	(1)スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進
		(2)関係団体との連携とスポーツ指導者の養成
		(3)スポーツ施設の利用促進
	<b>8</b> 2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進を図る	(1)2020東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致
		(2)スポーツ人口の拡大

【学校教育・家庭教育の柱】

## 生きる力を育み、総合的な人間力をもった子どもたちの育成

基本目標 1 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、思考力や表現力の向上を図る

【所管：学校教育課・生涯学習課】

### 重点施策 1－（１）確かな学力の育成

基礎的・基本的な知識や技能を習得し、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成に努める。また一人ひとりが、主体的に学習に取り組み確かな学力の向上を図る。

#### (1)事業展開

- 1.一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育の推進
- 2.魅力ある授業づくりの推進
- 3.家庭学習の充実
- 4.豊かな心を育む読書活動の推進
- 5.放課後子ども教室の開催

#### (2)目標(値)

- ①全国学力・学習状況調査における全国平均値の達成
- ②千葉県標準学力検査における千葉県平均値の達成
- ③家庭学習の進め方について、指針の作成の検討
- ④蔵書の学校図書館標準 100%の達成及びデータベース化に向けた準備

#### 取組(事業展開)

##### 1.一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育の推進

- ・各学校の実態を踏まえた「学力向上プランニングシート」を作成し活用した。
- ・東金市教務主任・研究主任等研修会（新学習指導要領について）を1回開催した。

##### 2.魅力ある授業づくりの推進

- ・ICT機器の活用方法を研究する東金市教職員研修会を2回開催した。

##### 3.家庭学習の充実

- ・「学力向上プランニングシート」に家庭学習の充実に向けた取り組みを位置付けた。

##### 4.豊かな心を育む読書活動の推進

- ・読書タイムと読み聞かせ（小学校）を推進した。
- ・優良・優秀学校図書館認定事業を奨励した。

##### 5.放課後子ども教室の開催

- ・鶴嶺小学校、豊成小学校、福岡小学校、源小学校、日吉台小学校で開催した。
- ・東金市放課後子ども教室運営委員会を開催した。（7月・11月・3月）

#### 成果(目標値)・評価

##### ①全国学力・学習状況調査における全国平均値の達成

- ・小学校は千葉県の平均正答率とほぼ同じであった。

(『国語』「話すこと・聞くこと」: 2.1 ポイント上昇、「読むこと」: 1.3 ポイント上昇)

(『算数』「数と数量」: 3.7 ポイント上昇、「数量関係」: 3 ポイント上昇)

- ・ 中学校は千葉県の平均正答率とほぼ同じであった。

(『国語』「話すこと・聞くこと」: 0.3 ポイント上昇)

(『数学』「関数」: 0.9 ポイント上昇、「資料の活用」: 4.6 ポイント上昇)

《各教科の領域ごとの正答率の推移》

## ②千葉県標準学力検査における千葉県平均値の達成

- ・ 小学校は、千葉県平均値とほぼ同じであった。

中学校は、千葉県平均を上回ることができた。

教科別では、小学校の「社会」、「理科」で、中学校の「国語」、「社会」、「理科」で県平均値を上回った。

- ・ 各校で千葉県平均値を達成するための観点を、小学校では20項目、中学校では15項目を設定し、その半数以上を達成するよう努力目標を決め、授業改善等を図るよう各校に指示徹底に努めた。

(小学校評価観点は20項目⇒1・2年の検査教科は、「国語」、「算数」の2教科・

3年以上の検査教科は、「国語」、「算数」、「社会」、「理科」の4教科)

(中学校評価観点は15項目⇒検査教科は3学年とも5教科(「国語」・「数学」・「社

会」・「理科」・「英語」)

- ・ 一人ひとりのニーズに応じた指導のために、「学習サポーター」及び「きめ細かな指導のための非常勤講師」の派遣を県に要請し、市内5校に配置した。また各校における「学力向上プランニングシート」の有効な活用方法について検討した。
- ・ 鶴嶺小学校、豊成小学校、福岡小学校、源小学校、日吉台小学校にて「放課後子ども教室」を開催した。

## ③家庭学習の進め方について、指針の作成の検討

- ・ 家庭学習の進め方については、各学校の実態に応じて進めている。各校の状況を把握し、次年度以降に指針を示す方向で確認した。

## ④蔵書の学校図書館標準100%の達成及びデータベース化に向けた準備

- ・ 優良・優秀図書館認定事業への積極的な参加を促している。平成30年度末、小学校7校、中学校3校が優良図書館として認定されている。

## 課題

基礎的・基本的な知識や技能を習得し、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成に努めた。具体的な取り組みとして、「学力向上プランニングシート」の改訂を行い、組織的に学力向上に取り組んだ結果、千葉県標準学力検査については、小学校は県平均値とほぼ同じ、中学校は県平均値を上回った。また、「学力向上プロジェクト会議」を開催し、各学校の取り組みを把握するとともに、より効果をあげるための指導助言を行った。学習サポーター等の指導のための人員確保が効果的であった。引き続き、学力向上に係る組織的な取り組みを強化すると共に、指導のための人材確保に努めていく。家庭学習については、すでに指針や手引を作成して取り組んでいる学校の成果と課題を市全体で共有し、よりよいものを示すよう検討していく。

図書ボランティアによる図書館整備は、徐々に拡大している。学校司書の配置や市の図書館とのネットワークの整備も視野に入れながら図書館教育を推進していく。

<b>重点施策 1 - (2) 特別支援教育の推進</b>
<p>特別な支援を必要とする子どもが、早期からの教育相談と支援を受けられるようにするための支援体制を整備する。</p> <p>(1)事業展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.校内体制の整備</li> <li>2.保育補助や特別支援教育支援員の力量の向上</li> <li>3.就学前の子どもたちの就学相談の充実</li> </ol> <p>(2)目標（値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別な支援が必要な子どもの個別の指導計画の作成</li> <li>②保育補助、特別支援教育支援員の研修機会の実施</li> <li>③関係機関と連携しての就学相談の充実</li> </ol>
<b>取組（事業展開）</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.校内体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な子どもの個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成した。</li> </ul> </li> <li>2.保育補助や特別支援教育支援員の力量の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育支援員を対象とした「説明会」「研修会」を開催した。</li> <li>・各幼稚園、各学校を訪問し、支援の状況を確認し、助言した。</li> </ul> </li> <li>3.就学前の子どもたちの就学相談の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「就学相談の手引」を作成し、個別面談・学校見学・「ことばの検査」を実施した。</li> </ul> </li> </ol>
<b>成果（目標値）・評価</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>①特別な支援が必要な子どもの個別の指導計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級に在籍する全ての児童・生徒について「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成した。</li> <li>・普通学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒のうち、約8割について「個別の教育支援計画」を作成した。</li> </ul> </li> <li>②保育補助、特別支援教育支援員の研修機会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育支援員に係る「説明会」を1回、「研修会」を2回開催し、その力量向上に努めた。</li> </ul> </li> <li>③関係機関と連携しての就学相談の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「就学相談の手引」を改訂し、就学前児の保護者に配付した。</li> <li>・簡易マザーズホームにおいて、保護者を対象に就学について説明をした。</li> <li>・「特別支援教育ネットワーク会議」、「教育支援委員会」を開催し、情報の共有と適切な就学相談を行うための根拠を明確にした。</li> <li>・就学前児の保護者等との面談や学校見学の企画・同行を行った。</li> </ul> </li> </ol>

- ・各保育所・幼稚園を訪問し、就学前児全員を対象に「ことばの検査」や「ことばの相談会」を行った。

#### 課題

特別な支援を必要とする子どもが、早期からの教育相談と支援を受けられるようにするための支援体制を整備した。具体的には、連続性のある多様な学びの場を提供するために、「東金市特別支援教育ネットワーク会議」や「東金市教育支援委員会」等、関係諸団体の連携を強化し、適切な就学指導をするための会議の充実を図った。また、幼稚園、保育所等を訪問し、就学相談の充実を図ったが、今後連携の更なる強化に努めていく。

「就学相談の手引」については、改訂し、一人ひとりの特性に応じた支援ができることを周知した。特別支援教育支援員を34名、1校あたり2.62人を配置したが、今後、各学校のニーズに応じて適切な配置ができるよう、状況確認を行い、効果的に活用していく。また、支援員の研修内容を見直し、実践力が高められるように工夫していく。

千葉県から派遣される特別支援アドバイザーを活用する各幼稚園や小中学校が増えた分、派遣までに期間を要したり、希望する期間に派遣してもらえない状況があるため、東金特別支援学校や簡易マザーズホームへのアドバイザー要請を検討したい。

**重点施策 1－（3）情報教育の推進**

I C T機器を活用した多様な学習の場を設けることにより、子どもたちの思考力・表現力・判断力等の育成と向上を目指す。

**(1)事業展開**

1. I C Tを効果的に活用した子どもたちの主体的な学びの実現
2. I C T活用のために必要な教育環境の充実
3. S N Sの利用等に関する情報モラル教育の推進

**(2)目標（値）**

- ①全国学力・学習状況調査において「コンピュータ等を活用して子ども同士が教え合う学習や課題発見・解決型の授業を行っている」の回答率増加
- ②I C T教育推進のために必要な周辺機器の整備
- ③I C T教育に関する研修会の実施

**取組（事業展開）**

1. I C Tを効果的に活用した子どもたちの主体的な学びの実現
  - ・I C T活用法やプログラミング教育等にかかわる研修会を企画・運営した。
2. I C T活用のために必要な教育環境の充実
  - ・プログラミング教育のためのアプリケーションをインストールした。
3. S N Sの利用等に関する情報モラル教育の推進
  - ・I C T教育推進委員会において、情報モラル教育の教材の提供を行なった。

**成果（目標値）・評価**

- ①全国学力・学習状況調査において「コンピュータ等を活用して子ども同士が教え合う学習や課題発見・解決型の授業を行っている」の回答率  
この質問は、隔年の調査となります。

	基準値(H27)	今年度
小学校	88.90%	
中学校	25.00%	

- ・タブレットやコンピュータ教室を活用し、様々な教科の授業を行った。
- ・SNS利用を中心とした情報モラルの学習を、いじめにつながる案件を防ぐため、小学校高学年の児童と中学校の生徒や保護者向けに行った。

**②I C T教育推進のために必要な周辺機器の整備**

- ・全小・中学校に配置したタブレットに、プログラミング教育に必要なアプリケーションを追加した。
- ・各校の校内LANやアクセスポイントについて点検・整備を行った。

### ③ ICT教育に関する研修会の実施

- ・各学校のICT担当教諭を対象とした研修を年3回、小・中学校全職員を対象とした授業公開を年2回行い、タブレット等ICT機器を活用した指導方法の周知や研修を行った。

### 課題

ICT担当者を対象とした研修や全職員を対象とした授業研究会の実施は、ICTをより活用していくために効果的であった。学習指導要領の改正により小学校では2020年からプログラミング教育が導入される。導入に向けてタブレット用アプリケーションの活用法や授業用実践について研修を進める。

また、ICT機器を活用した多様な学習の場を設け、子どもたちの思考力・判断力・表現力等の定着と向上を目指す。

今後は、文部科学省から新しく出された5カ年計画の目標に準じ、タブレットやその周辺機器の充実を図り、その効果的な活用について研究していく必要がある。

いじめ防止の上でも喫緊の課題となっている情報モラル教育は、関係機関や企業と連携を図りながら各学校に指導・助言を行う。また、新入生説明会や保護者会、PTAを活用し、保護者向けにも情報提供を行なっていく、

**重点施策 1 - (4) 国際教育の推進**

国際化が進展する今日において、異文化理解を深め、他者を尊重し、協働するためのコミュニケーション能力等を育成する。

**(1)事業展開**

- 1.研修内容の充実
- 2.城西国際大学との連携の推進
- 3.2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加検討

**(2)目標（値）**

- ①実践的な研修や小・中学校を見通したカリキュラムの検討
- ②チューター制度を活用した城西国際大学との連携の推進
- ③ 2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加

**取組（事業展開）****1.研修内容の充実**

- ・東金市小学校英語指導研修会を1回開催した。
- ・東金市英語指導助手研修会を1回開催した。

**2.城西国際大学との連携の推進**

- ・鵠嶺小学校において英語活動を実施した。
- ・チューター制度（市内小・中学生への学習支援や部活動支援）を実施した。  
（豊成小学校、西中学校）

**3.2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加検討**

- ・東中学校で「JOCオリンピック教室」を開催した。

**成果（目標値）・評価****①実践的な研修や小・中学校を見通したカリキュラムの検討**

- ・新学習指導要領の実施に向け、各小・中学校の教務主任を対象に、カリキュラム・マネジメント等について研修を行った。
- ・小学校高学年の英語科及び中学年の英語活動の導入のためのカリキュラムを検討し、先行実施に伴う研修を行った。

**②チューター制度を活用した城西国際大学との連携の推進**

- ・城西国際大学担当者と協議し、チューター制度を活用した学習支援を行った。チューター制度が児童・生徒、そして教職を目指す大学生にとって有効であるという声があった他、放課後子ども教室の学習支援への参加も見られた。

**③ 2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加**

- ・東中学校で「JOCオリンピック教室」を開催した。オリンピックを招聘し、2時間の授業が行われた。子どもたちは意欲的に参加し、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。

## 課題

東金市小学校英語指導研修会を継続して開催し、小学校3学年から6学年までを担当する教員が参加できる機会を設ける。指導法や評価の在り方等、新たな情報について近隣市町村と情報交換をしながら各小・中学校への情報を提供する。

現在、チューター制度は、各小・中学校のニーズと城西国際大学の学生のニーズをすりあわせることで成立している。今後、大学担当者とも協議を重ねることで有効な運用を図り、各学校の教育課程の中に、城西国際大学の多くの学生や外国人留学生等が関われるよう検討する。

東京オリンピック・パラリンピック事業への参加については、県や市全体の動向を見ながら各学校の教育課程の中に位置づけられるよう検討していく。

## 基本目標 2 自他を思いやる、豊かな心を育成する

【所管：学校教育課】

### 重点施策 2 - (1) いじめ対策の推進

家庭と連携を図りながら、学校の全教育活動を通して、子どもたちに自他を思いやる豊かな心を育成する。

#### (1)事業展開

1. 「いじめ問題対策室」の設置
2. 「子どもの心を大切にするアンケート」の実施
3. 「子どもと親の相談員」の配置
4. 「東金市いじめ問題防止マニュアル」を基にした教職員の研修の実施

#### (2)目標（値）

- ①全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」の回答率増加
- ②子どもの心を大切にするアンケートにおいて「学校生活を楽しく過ごしている」の回答率増加
- ③子どもと親の相談員等の相談窓口の周知と組織対応の充実
- ④生徒指導に関する研修会の実施

#### 取組（事業展開）

##### 1. 「いじめ問題対策室」の設置

- ・電話や来庁による相談を181件受け付け、対応した。

##### 2. 「子どもの心を大切にするアンケート」の実施

- ・市内全小・中学生の保護者を対象に実施し、校長を通して回収した。  
各校の回答をまとめ、全学校を担当指導主事が訪問し、改善策等についての協議や具体的な指導を行った。

##### 3. 「子どもと親の相談員」の配置

- ・小学校に3名、中学校に1名を配置し、小学校は各校175日間の勤務で合計569件、中学校は各校150日間の勤務で154件の相談を行った。
- ・また、小学校5年生、中学校2年生に全員面談を行なった学校もある。

##### 4. 「東金市いじめ問題防止マニュアル」を基にした教職員の研修の実施

- ・各学校に、年に1度学校いじめ防止基本方針の見直しを図るよう指示をした。また、「学校だより」や保護者会等で保護者にも周知すると共に、各学校のホームページに掲載するように指導をした。

#### 成果（目標値）・評価

- ①全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」の回答率増加

	基準値(H27)	今年度
小学校	95.20%	95.90%

中学校	93.60%	93.90%
-----	--------	--------

- ・互いのよさを認め合い、共感的な人間関係となるように情報提供を行ったため、今年度は小中学校共に基準値を上回った。
- ・「いじめ」について、道徳の授業だけではなく、あらゆる教科・学校生活、集会や面談等の中で関連付け、自己有用感をもち、相手を思いやれるような人間関係となるよう指導・支援を行った。

**②子どもの心を大切にすアンケートにおいて「学校生活を楽しく過ごしている」の回答率増加**

	基準値(H27)	今年度
小学校	97.00%	96.40%
中学校	95.30%	94.50%

- ・学校生活の中で、より良い人間関係の構築や仲間同士の関係性の向上について、常に意識をさせられるように支援し、学級や学校への所属意識を高めた。
- ・意図的に自己決定の場や自己有用感を感じさせる場を設定し、共感的人間関係を築けるような「わかる授業」の展開を促し、授業に対する児童・生徒の意欲を喚起した。

**③「子どもと親の相談員」等の相談窓口の周知と組織対応の充実**

- ・「子どもと親の相談員」を効果的に配置・運用ができるよう月に1回実態を把握するために情報交換を行い、研修を年に3回行い、意識の高揚を図った。
- ・新入学生の説明会や入学式、保護者会や「学校・学年だより」等を活用し、相談員の活動についての周知をした。学級担任が、教育相談の機会にも周知活動を行った。
- ・学校教育課内に設置している「いじめ・生徒指導窓口」にて相談活動を充実させた。

**④生徒指導に関する研修会の実施**

- ・小・中・高等学校連携の生徒指導主任を対象とした情報交換会と研修を、年3回実施した。
- ・小・中学校連携生徒指導研修会を、年1回実施した。
- ・各学校に周知した「東金市いじめ問題防止マニュアル」の確認を行い、各学校のいじめ防止基本方針を年に1回見直すと共に、ホームページへ掲載するよう指導した。
- ・年に10回開催している長欠・教育相談連絡会議において、スクールソーシャルワーカーを招聘し、家庭環境の複雑化、養育の困難さに対応するための研修を行った。

**課題**

生徒指導関係の研修会では、虐待対応のための関係機関との連携について、子どもの安全・安心を図るため研修を行なった。今後も継続して情報提供をしていきたい。

教育委員会に設置されている「いじめ・生徒指導相談窓口」では、延べ181件の相談を受けた。引き続き、窓口の周知に努め、いじめの未然防止・早期発見、対応に努めていきたい。

また、毎年6月に実施している「子どもの心を大切にすアンケート」と、その対応により、いじめの早期発見・対応に効果が現れている。今後も、いじめの積極的な認知と早期対応の徹底を図り、重大な事態に至らないように各学校と連携していく。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、生涯学習課、子育て支援課、児童相談所、県警の生活安全課等とのネットワークを生かし、必要に応じた適切な対応ができるように情報共有を図る。

## 重点施策 2 - (2) 生徒指導の充実（長欠・不登校解消に向けた取り組みの充実）

家庭と連携を図りながら、魅力ある学校・学級づくりに心がけ、長欠・不登校の解消を目指す。

## (1)事業展開

1. 学校内の教育相談体制の充実
2. 学校における不登校児童・生徒に対する支援の推進
3. 関係機関による不登校児童・生徒支援体制の充実

## (2)目標（値）

- ①不登校出現率の減少
- ②全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思っている」の回答率増加
- ③長欠・教育相談連絡会議の充実

## 取組（事業展開）

## 1.学校内の教育相談体制の充実

- ・月に1回「長欠・教育相談会議」を開催し、長欠対策の体制の確認と相談、長欠の未然防止に係る研修を行った。

## 2.学校における不登校児童・生徒に対する支援の推進

- ・長欠・不登校児童・生徒の実態把握に努め、教育委員会での面談や電話相談、家庭訪問等を行い、適応指導教室や学校への復帰を後押しした。

## 3.関係機関による不登校児童・生徒支援体制の充実

- ・こども課、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、訪問相談担当教員、山武郡市教育相談センター、中核生活支援センター、児童相談所、外房少年センターとの連携の充実に努め、組織的な対応を密にしている。

## 成果（目標値）・評価

## ①不登校出現率の減少

	基準値(H26)	今年度
小学校	0.66%	0.85%
中学校	2.14%	4.62%

- ・子どもと親の相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談担当教員、こども課や家庭教育相談室等と連携して、不登校児童・生徒の出現防止や早期解決に努め、昨年度より減少したが、まだ基準値を上回っている。

## ②全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思っている」の回答率 →この質問は、隔年の調査となります。

	基準値(H27)	今年度
小学校	84.50%	
中学校	80.20%	

- ・児童・生徒が「行きたい」と思う学校を目指し、校長の描くビジョンの実現に向け、教職員が共通理解のもと、児童・生徒が過ごしやすい学校づくりを意識した取り組みを継続している。
- ・生徒指導の機能を生かした授業内容や学校行事等の充実により、学級や学校への所属感や自己有用感を高める努力をしている。

### ③長欠・教育相談連絡会議の充実

- ・月に1回「長欠・教育相談会議」を開催し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、中核地域生活支援センター等関係機関と情報交換を行うとともに、長期欠席の未然防止と早期発見・解消に向けて、組織的な連携を行った。
- ・関係機関との連携についての研修を行い、組織的な体制づくりをすることで、様々なアプローチができるように支援を行なっている。

### 課題

長欠の出現率は、小中学校で共に減少した。不登校の出現率は、小学校で減少したが、中学校では増加した。減少したのは、各学校での丁寧な取り組みと関係機関との連携により、改善が図られた児童・生徒がいたためと考えられる。

ただ、依然として長欠や不登校の原因は複雑かつ複合的なままであり、各学校でも対応に苦慮している。学校と保護者だけでは解決の糸口が見つからないため、外部機関との連携が不可欠となっている。

学校ができることは、各学校が魅力ある学校づくりに努めることである。これについては、各学校が年度初めに作成する学校要覧により、そのビジョンを確認することができる。また、教育長や学校教育課が学校を訪問し、学校経営の状況を把握し、指導・助言することで改善されてきている。

月1回開催している「長欠・教育相談会議」は、各校の情報交換と関係外部機関との連携し、予防的な対応の具体的な手立てとその効果を検証する場としている。「長欠・教育相談会議（対策チーム）」の充実を図るため、特に未然防止に特化した研修を取り入れ、関係機関との連携を強化している。

## 重点施策 2 - (3) 道徳教育の推進

学校の全教育活動を通して、道徳性を高める実践的人間教育を推進する。

## (1)事業展開

- 1.地域とともに道徳性を高める活動の推進
- 2.マナーやルールを学ぶ機会の充実
- 3.効果的な道徳の時間の進め方についての指導・研修

## (2)目標（値）

- ①全国学力・学習状況調査において「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」の回答率増加
- ②全国学力・学習状況調査において「学校のきまり・規則を守っている」の回答率増加

## 取組（事業展開）

## 1.地域とともに道徳性を高める活動の推進

- ・学校運営懇談会を各小・中学校2～3回開催した。
- ・中学生による地域清掃ボランティアを実施した。

## 2.マナーやルールを学ぶ機会の充実

- ・各小・中学校において授業規律の確立に向けた指導を実施した。

## 3.効果的な道徳の時間の進め方についての指導・研修

- ・北中学校が「特色ある道徳教育推進校」として研究授業を公開した。

## 成果（目標値）・評価

## ①全国学力・学習状況調査において「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」の回答率増加

- ・昨年度からこの質問項目が無くなり、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に代わった。この質問項目に対して、（当てはまる）・（やや当てはまる）と回答する児童・生徒の割合は、小学校で93.7%、中学校で93.9%となった。

	全国	千葉県	東金市
小学校	95.20%	94.80%	93.70%
中学校	94.90%	94.30%	93.90%

## ②全国学力・学習状況調査において「学校のきまり・規則を守っている」の回答率増加

	全国	千葉県	30年度(前年度比)	29年度
小学校	89.50%	90.10%	87.80%(↓)	92.20%
中学校	95.10%	94.70%	95.60%(↓)	98.00%

- ・昨年度と比べ、小・中学校ともに回答率は低下したが、県平均値とほぼ同じである

## ◇地域とともに道徳性を高める活動の推進

- ・源小学校と北中学校が、東金市教職員研修会で道徳の研究授業を公開した。市内から多くの教職員が参加し、「考え、議論する道徳」の授業の在り方について認識を深めた。

- ・東金中学校、西中学校、北中学校は、地域の方と一緒に地区内清掃作業を行った。
- ・全ての学校で「学校運営懇談会」を年2～3回開催し、児童・生徒の地域での様子を含めた話し合いを行った。

#### ◇マナーやルールを学ぶ機会の充実

- ・各学校において基本的な生活習慣やコミュニケーション能力を高めることを意識した授業や活動を行った。

#### 課題

道徳の教科化を踏まえ指導及び評価の方法について引き続き研究を進めていく。また、各校がより一層充実した研修を進めることができるよう最新の情報を提供するとともに、各学校が円滑に完全実施できるように支援していく。

東金市教職員研修会において、小・中学校それぞれ1校ずつが特別の教科「道徳」についての研究授業を公開する。

**基本目標 3 健やかな体を育成するとともに、体力の向上を図る**

【所管：学校教育課】

**重点施策 3 - (1) 学校体育の充実**

子どもたちが生涯にわたって、運動やスポーツに慣れ親しむための態度や能力を育成する。

(1)事業展開

- 1.体力向上推進校を中心とした学校体育の充実・指導法の改善
- 2.全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用
- 3.部活動支援
- 4.スポーツ環境の整備

(2)目標（値）

- ①全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均値の達成
- ②千葉県体力・運動能力テストにおける県平均値の達成
- ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における1週間の総運動時間が「60分未満」の児童・生徒の減少（小5男女、中2男女）

**取組（事業展開）**

- 1.体力向上推進校を中心とした学校体育の充実・指導法の改善
  - ・ブロック体育の研究指定校（豊成小学校）における研究授業を公開した。
  - ・体育の授業マイスター認定事業のDVD等の貸出しを実施した。
- 2.全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用
  - ・本調査結果における東金市の概要を各小・中学校に提供した。
- 3.部活動支援
  - ・外部指導者及び城西国際大学の学生と連携し支援した。
- 4.スポーツ環境の整備
  - ・東中学校において、オリンピック2名（水泳・競泳選手、リュージュ選手）による運動、座学指導「JOCオリンピック教室」を実施した。

**成果（目標値）・評価**

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均値の達成

握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、20mシャトルラン(回)、50m走(秒)、立ち幅とび(cm)、【小】ソフトボール投げ(m)・【中】ハンドボール投げ(m)<8項目>

- ・小学校：男女ともに「握力」「50m走」等、8種目中5種目が全国平均を上回った。
- ・中学校：女子は「反復横とび」「20mシャトルラン」等、9種目中4種目が全国平均を上回った。しかし、男子については、全国平均を上回る種目が一つもなかった。
- ・小学校では、基礎体力・運動技能の向上を図るために、教科体育での指導方法の工夫を行い、運動量を確保するとともに、業間及び昼休みにおいて、「遊・友（ゆうゆう）スポーツランキングちば」や時間走等に取り組んだ。

- ・中学校では、教科体育や運動部活動において計画的・継続的に指導することで、基礎体力や運動能力の向上を図った。特に、教科体育では、剣道等の武道やダンス等で、生徒の意欲を引き出し、達成感を得ることで生涯スポーツへの継続を図った。

## ②千葉県体力・運動能力テストにおける県平均値の達成

握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、20m シャトルラン(回)、50m 走(秒)、立ち幅とび(cm)、【小】ソフトボール投げ(m)・【中】ハンドボール投げ(m)<8項目>

- ・小学校では、6年男子が全項目において県平均値を上回った。6年女子は「長座体前屈」「反復横とび」以外は県平均値を上回った。
- ・中学校では、2・3年男子の「反復横とび」「立ち幅とび」が県平均値を上回った。女子の体力・運動能力が、1年生をピークにして低下する結果となった。

## ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における1週間の総運動時間（体育・保健体育は含まない。）が「60分未満」の児童・生徒の減少（小5男女、中2男女）

	全国	千葉県	30年度(前年度比)	29年度	令和2年度
小5男	7.20%	8.20%	7.70%(↑)	7.50%	5%以下
小5女	13.20%	14.90%	15.00%(↑)	14.00%	
中2男	6.50%	7.20%	11.10%(↑)	9.20%	
中2女	19.40%	20.80%	24.00%(↑)	16.60%	

### ◇学校体育の充実及び部活動支援

- ・ブロック体育の公開授業により、指導法の工夫について情報を共有した。
- ・西中学校、東中学校、北中学校では、外部指導者による部活動の支援を行った。
- ・東中学校において、オリンピック2名（水泳・競泳選手、リュージュ選手）による運動、座学指導「JOCオリンピック教室」を実施し、生徒から貴重な経験ができたという感想があった。

### 課題

小学校では、5・6年生において全国平均や県平均をほぼ上回る結果となった。一方、中学校では、十分な結果とはならなかった。特に女子については、1年生をピークにして体力及び運動能力の低下が顕著であった。今後は、中学校における女子体育の充実が重要である。

運動習慣については、中学校において1週間の総運動時間が「60分未満」の生徒の割合が増加している。部活動に参加しない児童・生徒に対しても、保健体育や体育的行事等を通して運動に親しむ態度の育成を行う。また、地域人材を外部指導者として活用することを視野に入れ、学校体育の充実を図る。

**重点施策 3 - (2) 健康教育の充実**

子どもたちが生涯にわたって健康で充実した生活を営む能力を身につけるため、健康の保持増進に対する意識を高め、望ましい生活習慣を身につける。

**(1)事業展開**

- 1.学校教育全体を通じた健康教育の推進
- 2.養護教諭やゲストティーチャーによる「健康教育」の授業実践
- 3.家庭や地域と連携した健康教育の推進

**(2)目標（値）**

- ①肥満傾向児の出現率減少
- ②虫歯の治療処置率の向上

**取組（事業展開）****1.学校教育全体を通じた健康教育の推進**

- ・身体計測等各種検査（健診を含む）を実施した。
- ・小学校における「歯みがき教室」を実施した。（健康増進課歯科衛生士による）
- ・薬物乱用防止教室を実施した。

**2.養護教諭やゲストティーチャーによる「健康教育」の授業実践**

- ・城西国際大学薬学部教授及び学生による薬物乱用防止教室を実施した。  
（城西小学校、豊成小学校、源小学校）

**3.家庭や地域と連携した健康教育の推進**

- ・各小・中学校にて「学校だより」や「保健室だより」等を発行した。

**成果（目標値）・評価****①肥満傾向児の出現率減少**

	全国	千葉県	30年度(前年度比)	29年度	令和2年度
小5男	10.60%	10.20%	14.2%(↓)	17.40%	7%以下
小5女	7.90%	7.30%	6.6%(↓)	8.20%	
中2男	7.80%	7.30%	12.7%(↑)	10.30%	
中2女	6.20%	5.70%	4.7%(↓)	12.00%	

- ・小5、中2男以外について、肥満傾向がとても低い結果となった。
- ・肥満傾向の児童・生徒については、個人面談を実施し、食生活等、基本的な生活習慣の見直しについて指導した。
- ・各学校において、「保健だより」、「給食だより」等を基に肥満や生活習慣病について指導した。また、児童・生徒による保健委員会や給食委員会では、健康や食についての提案や発表を行った。

## ②虫歯の治療処置率の向上

30年度(前年比)	29年度	令和2年度
43.2%(↑)	27.6%	30%以上

- ・昨年度と比較すると、処置率が向上した。今後も、各学校において、年間指導計画をもとに、養護教諭による指導や「保健だより」等による啓発を進めていく。

## 課題

肥満及び肥満傾向の児童・生徒の減少を目標とし、各学校において年間指導計画を基に、養護教諭が健康に関する指導を継続することはもちろん、栄養教諭・栄養職員とも連携しながら食育に関する専門的な知識を身につけられるよう指導していく。

虫歯の治療処置率については、昨年度より大幅に向上した。今後は、関係機関（健康増進課や学校医、学校歯科医）との連携を図り、より効果的な指導や保護者への啓発を進めていく。

「薬物乱用防止教室」については、全中学校で実施した。また、城西国際大学薬学部の教授及び学生による薬物乱用防止教室を城西小学校、豊成小学校、源小学校で実施した。今後も継続して学校薬剤師や城西国際大学との連携を図っていく。

各学校の「学校だより」や「保健室だより」、「給食だより」等では、季節に応じた内容を盛り込み、児童・生徒及び保護者に対する啓発を行っていく。

**重点施策 3 - (3) 食育の推進**

子どもたちが、食に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけられるよう、食に関する指導の充実を図る。

**(1)事業展開**

- 1.学校教育全体を通じた食育の推進
- 2.栄養教諭・栄養士による指導
- 3.地産地消食材を使用した給食の提供の推進
- 4.望ましい食習慣づくりのための家庭や地域への啓発活動

**(2)目標（値）**

- ①「毎日朝食を食べる」児童・生徒の割合の向上
- ②「食育に関する授業」の実践

**取組（事業展開）****1.学校教育全体を通じた食育の推進**

- ・食に関する指導に係る全体計画の整備について栄養教諭や栄養士に指示をし、食に関する指導内容を系統的に確認させた。

**2.栄養教諭・栄養士による指導**

- ・朝食に関する調査結果を子どもたちに還元させ、「給食だより」や学級への献立紹介プリント、給食委員会による校内放送を通じて、食に関する知識等を周知するように指導した。

**3.地産地消食材を使用した給食の提供の推進**

- ・地産地消給食を月に1～2回行い、産地や特徴、料理法や歴史等を紹介し、子どもたちが興味をもって食べられるような食育をするよう、栄養教諭や栄養士に指導した。

**4.望ましい食習慣づくりのための家庭や地域への啓発活動**

- ・「給食だより」や給食の試食会等の機会を活用し、学校給食の目的を伝え、朝食の内容についてのアンケート結果や改善すべき点、地産地消給食のレシピ紹介を行うよう、栄養教諭や栄養士に指導した。

**成果（目標値）・評価****①「毎日朝食を食べる」児童・生徒の割合の向上**

基準値(H27)	30年度	令和2年度
80.40%	88.50%	90%以上

- ・朝食についてのアンケートを行い、それを基にした朝食の大切さに関する食育の授業を小学校6年生と中学校3年生を対象に行なっている。
- また、「給食だより」、「保健だより」、「学級・学年・学校だより」を通じて、児童・生徒にとって望ましい食生活・食習慣のためにどうすべきか、家庭や地域に周知・広報活動を行った結果、今年度も基準値を上回った。

## ②「食育に関する授業」の実践

- ・「朝食に関する授業」を市内全ての小学校5年生と、中学校3年生に向けて実施した。
- ・「朝食」に関する研究を栄養士会で継続して行い、各学校の食育全体計画を基に、栄養教諭や栄養士と連携し、朝食の重要性や栄養価等に関する授業を行った。

## 課題

朝食の欠食や、食事内容の偏りや野菜摂取量の不足は、貧血を招き、午前中の倦怠感や不定愁訴につながるものが懸念されている。また、食生活の乱れや肥満や痩身傾向等、健康を取り巻く問題も深刻化している。

そこで、食に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけられるよう、各学校で食に関する指導の充実を図っている。

具体的には、栄養職員（栄養教諭及び栄養士）が朝食に特化したアンケート調査を継続して行い、その結果を生かした授業を、各学校の状況に応じて展開してきた。また、栄養士会が中心となり、地産地消食材を使用し、工夫した給食を定期的に提供し、児童・生徒の食への関心を高めることができた。

今後についても、このような活動を教育課程の中にしっかりと位置づけ、不規則な生活習慣を見直すためにも保護者を含めた食育の在り方について、学校でどのように行なっていくか検討していく。

## 基本目標 4 家庭・地域・学校の連携を強化する

【所管：学校教育課】

### 重点施策 4－（１）地域に開かれた特色ある学校づくりの推進

学校を核とした地域コミュニティの構築と、地域と連携した安心で信頼される学校づくりの推進を目指す。

#### (1)事業展開

- 1.情報発信
- 2.東金版コミュニティ・スクールの充実
- 3.安全・安心な学校づくり

#### (2)目標（値）

- ①ホームページの更新等情報発信の充実
- ②東金版コミュニティ・スクールの充実
- ③保護者・地域と連携した安全・安心な学校づくりの推進

#### 取組（事業展開）

##### 1.情報発信

- ・「学校だより」や各校のホームページにより充実を図った。

##### 2.東金版コミュニティ・スクールの充実

- ・「学校運営懇談会」（東金版コミュニティ・スクール）を定期的開催し、内容の充実を図った。

##### 3.安全・安心な学校づくり

- ・関係機関と連携した通学路合同点検を継続した。
- ・「学校安全計画」の定期的な見直しを行った。

#### 成果（目標値）・評価

##### ①ホームページの更新等情報発信の充実

- ・校長会議や教頭研修会等において、「学校だより」や各校のホームページの定期的な更新及びより一層の充実について働きかけた。
- ・ホームページ作成の効率化をめざし、情報の収集を行った。

##### ②東金版コミュニティ・スクールの充実

- ・全ての小・中学校において学校運営懇談会（東金版コミュニティ・スクール）を年2～3回開催した。
- ・よりよい学校づくりをめざし、各学校の特色や課題に応じた話し合いが行われるようになった。

##### ③保護者・地域と連携した安全・安心な学校づくりの推進

- ・関係機関と連携した通学路合同点検や各校ごとの安全点検や交通指導により、安全・安心な学校づくりに努めた。
- ・「学校安全計画」を定期的に見直し、避難訓練等により実効性を確認した。

## 課題

学校を核とした地域コミュニティの構築と、地域と連携した安心で信頼される学校づくりの推進を目指し、各学校では「学校だより」による情報発信を定期的に行い、地域や家庭からも好評を得ている。ホームページの運用については、まだ十分とは言えない状況であるが、更新や管理を効率的に進めるための方法について検討することができた。

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために「東金市学校運営懇談会」（東金版コミュニティ・スクール）を開催し、組織的な評価・改善に取り組んでいる。活動の内容が、各学校の特色や課題に対応したものとなっており、よりよい学校経営に結びついている。

今後、ミニ集会や学校公開日等を情報交換の場と位置づけることで、より実効性のあるものへと改善していく。

安全・安心な学校づくりのために、交通安全や不審者対応等について、防犯ボランティアや関係機関との連携を目指し、「安全・安心メール」等を活用した情報共有を図っていく。

**重点施策 4 - (2) 学校評価の充実**

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために、自己評価や学校関係者評価を基に学校運営の改善に努める。

**(1)事業展開**

1. 評価方法・評価項目の検討
2. 評価結果の公表の工夫
3. 学校運営懇談会の活用

**(2)目標（値）**

- ① 評価方法・評価項目の検討
- ② 評価結果の公表を工夫
- ③ 学校関係者評価委員会等の組織を学校運営懇談会に統合

**取組（事業展開）****1.評価方法・評価項目の検討**

- ・各学校の評価方法や評価項目、結果等の情報を収集した。
- ・共通項目の設定について検討した。

**2.評価結果の公表の工夫**

- ・全ての小・中学校において「自己評価」の公表に向け取り組んだ。
- ・「学校関係者評価」の公表する割合を増加させた。

**3.学校運営懇談会の活用**

- ・学校評価に対する学校運営懇談会のあり方について検討した。

**成果（目標値）・評価****①評価方法・評価項目の検討**

- ・各学校の評価項目を比較し、今後の方針を検討した。

**②評価結果の公表の工夫**

- ・「学校だより」やホームページを活用した公表に取り組んだ。
- ・全ての小・中学校において「自己評価」、「学校関係者評価」を行った。
- ・「自己評価」については、全ての小・中学校が公表。「学校関係者評価」については、学校運営懇談会等の場で、全ての小中学校が実施。

**③学校関係者評価委員会等の組織の学校運営懇談会への統合**

- ・全小・中学校で「学校運営懇談会」を複数回開催し、その中で「学校関係者評価」を行った学校が多い。

**課題**

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために、「自己評価」や「学校関係者評価」を基に学校運営の改善に努めてきた。また、結果を「学校だより」やホームページで公表した。評価方法や評価項目については、各校に任せているが、教育委員会の指

導の重点を加味した評価項目について共通項目を設ける等して、経年経過を分析できるように働きかけていく。

また、東金版コミュニティ・スクールである「東金市学校運営懇談会」が学校関係者評価の場として有効に機能した。今後も、学校運営懇談会において、学校評価から見られる課題を検討し、解決方法を学校に答申し、実行の手助けができるような体制の整備を行う。

**重点施策４－（３）家庭・地域の教育力の向上**

家庭でのしつけ方や教育のあり方が問われている一方、地域とのつながりが希薄になっている。心身ともに健やかな子どもの成長を図るうえで、親の果たす役割は大きく、親の教育力・コミュニケーション能力の向上を高める学習機会の充実を図る。

**(1)事業展開**

- 1.保護者や地域住民への情報提供
- 2.1000カ所ミニ集会等への参加の推進
- 3.家庭教育学級の充実
- 4.親業訓練講座、講演の実施
- 5.親業スキルアップ講座、講演の実施（協働）

**(2)目標（値）**

- ①子育てに関する情報の提供の充実
- ②1000カ所ミニ集会や保護者会等への参加の推進
- ③家庭教育学級の充実
- ④親業訓練講座の充実

**取組（事業展開）****1.保護者や地域住民への情報提供**

- ・ホームページ、生涯学習情報誌「ときめき」、小・中学校の学校だよりを通して子育てに関する情報の提供を行った。

**2.1000カ所ミニ集会等への参加の推進**

- ・学校と地域住民が学校・家庭・地域のさまざまな教育問題について、市内の小・中学校を会場にして集会等を実施した。

**3.家庭教育学級の充実**

- ・市内の8幼稚園にて、家庭の教育力向上のため保護者及び幼児に対し、講話や体験実技などの講座を開催した。

**4.親業訓練講座・講演の実施**

- ・親業訓練入門講座（2日間）を12月に実施した。

**5.親業スキルアップ講座等の実施（協働）**

- ・平成30年度は実施無し。

**成果（目標値）・評価****①子育てに関する情報の提供の充実**

- ・ホームページ、生涯学習情報誌「ときめき」、小・中学校の学校だよりにより、子育てに関する情報提供を行ったことで市民への周知が図られた。

**②1000カ所ミニ集会や保護者会等への参加の推進**

- ・市内の小・中学校で 18 集会を実施した。学校の適正な運営のため、地域の有識者と意見交換を行った。

### ③家庭教育学級の充実

基準値 (H26)	30 年度	R2 年度
768 人	772 人	780 人

- ・市内の 8 幼稚園にて、家庭の教育力向上のため保護者及び幼児に対し、講話や体験実技など 18 講座を開催し、772 人が参加した。

### ④親業訓練講座の充実

基準値 (H26)	30 年度	R2 年度
55 人	6 人	60 人

- ・親子間の会話・コミュニケーションをより良いものにするため、ロールプレイングを基本とした入門講座を実施した。

※講演会については平成 28 年度をもって開催を終了し、入門講座についても平成 30 年度より託児サービスを廃止したため、参加者総数が大幅に減少となった。

### 課題

親子間の会話や地域内での連携は子育てにおいて重要と考え、親の教育力及び子どもとのコミュニケーション能力を向上させるうえで、必要な項目を 4 点掲げ取り組んできた。教育委員会（学校・生涯学習課）及び家庭教育関係者と共に、学習機会の情報発信からその実施までにわたり事業の推進が図られたが、予算及び実施規模の縮減に伴い参加者は減少している。

親業訓練講座については、複数日の受講日程がハードルとなるケースもあることに考慮し、より参加しやすい形式として一日限りの講演会へと切り替えて事業を実施する。

また、より多くの市民にこの施策の重要性を周知するため、既存の情報発信にプラス  $\alpha$  の情報提供の手段が求められる。一過性の施策にならないように、参加者に対してスキルアップの支援も必要となる。

**重点施策 4－（４） 学校施設の整備・充実**

未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活する場であり、地域住民にとっては、非常災害時には避難生活のよりどころとなる学校施設の整備・充実を図る。

**(1)事業展開****1.長寿命化改修の推進****(2)目標（値）**

- ①老朽化対策等の改修工事完了
- ②室内環境・空調設備等の環境整備完了
- ③食の安全 小学校給食施設の整備方針等検討
  - ・小学校給食施設整備方針
  - ・学校給食衛生管理基準適合施設への整備方針
  - ・単独校・共同調理場の方針

**取組（事業展開）****1.長寿命化改修の推進**

- ・老朽化対策等の施設の改修については、修繕の緊急性や利便性を考慮し、必要に応じて工事を行った。

**成果（目標値）・評価****①老朽化対策等の改修工事完了**

- ・福岡小学校校舎玄関の金属製建具等を改修し、西中学校校舎図書室の屋上防水の改修を行った。

**②室内環境・空調設備等の環境整備完了**

- ・中学校空調設備の導入に向けて工事が完了した。
- ・小学校及び幼稚園へ空調設備の導入に向けて工事を発注し、着手した。
- ・西中学校の校舎のトイレを和式から洋式へ改修した。

**③食の安全 小学校給食施設の整備方針等検討**

- ・学校給食衛生管理基準に適合した給食施設の整備へ向けて、保健所・学校教育課と検討した。また、正気小学校給食棟の調理室、配膳室等の網戸交換、城西小学校給食棟の食品庫棚のステンレス張り、東金中学校給食棟の庇防水の塗り替えを実施した。

**課題**

昭和50年代に建築された施設の大規模な改修工事については長寿命化計画との関連を含めて考えていかなければならないが、まだ具体的な取り組みは行っていないのが現状である。今後は、長寿命化計画を令和2年度までに策定することにより、施設の予防保全、維持管理に努める。

幼稚園・小学校における残りの空調設備の設置については、引き続き交付金の要望を行い、早期に設置し、施設の環境整備・充実を図る。

基本目標 5 人づくりから始まる生涯学習の推進を図る

【所管：生涯学習課】

重点施策 5－(1) 多様な学習機会の提供

今日の自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいのための学習需要が高まっているため、時代のトレンドや市民ニーズに対応した情報、講座、体験学習などの学習機会を提供することで、充実したライフスタイルの支援や人材育成を図る。

(1)事業展開

- 1.生涯学習「データバンク」の活用
- 2.生涯学習情報誌「ときめき」の発行
- 3.公民館各種サークル情報及び図書館だよりによる情報提供

(2)目標（値）

- ①生涯学習データバンク登録団体数の増加
- ②生涯学習の情報提供について、より幅広い提供を検討

取組（事業展開）

1.生涯学習「データバンク」の活用

- ・活用の向上を図るため、市民へ情報提供しているホームページ等により周知した。

2.生涯学習情報誌「ときめき」の発行

- ・年3回（夏号7,500部 秋号・春号各6,000部）の発行を行い、区長回覧を行うとともに市内外の公共機関や民間施設等に配布し、生涯学習の情報を広く市民に提供した。

3.公民館各種サークル情報及び図書館だよりによる情報提供

- ・公民館だより「どきどき」、図書館だよりを通して、市民へ情報を提供した。

成果（目標値）・評価

①生涯学習データバンク登録団体数の増加

基準値(H27)	30年度	R2年度
67団体	37団体	70団体

- ・市民の学習環境をサポートするため、生涯学習の活動を行っている指導者23人・37団体を登録・公表した。

※生涯学習データバンク登録団体への活動状況調査をしたところ、団員の高齢化や減少による活動終了を理由とする登録解除が多数あったため、登録状況に大幅な変更があった。

## ②生涯学習の情報提供について、より幅広い提供を検討

- ・生涯学習の情報を広く市民に提供するため、生涯学習情報誌「ときめき」を年3回発行し、区長回覧を行うとともに市内外の公共施設や民間施設等に配布した。また、その他の情報提供の手段として、「長生・山武地域イベント情報」などを活用し広域での情報提供も行った。

## 課題

多様な学習機会の提供として、いくつかの施策を実施しているが、生涯学習データベースについては登録者が高齢となり活動を休止している団体の増加や、利用問合せが減少していることからうまく機能していない状況となっており、事業の見直しも必要と考える。

また、市民活動については地区公民館が地域活動として登録しているもの、地域振興課が「市民活動ガイドブック」で取りまとめているもの、社会福祉協議会で登録しているものなど、いくつも情報提供があるため、今後、情報の一元化により利用者の使いやすいものを検討する必要がある。

**重点施策５－（２）青少年健全育成の推進**

家庭・地域社会との連携により、青少年の健全育成を地域で支える体制づくりを進める。また、青少年の団体活動、交流活動への参加機会の拡充を図り、仲間や地域の人々とのふれあいを通じて成長を促す。

**(1)事業展開**

1. 青少年相談員連絡協議会活動の実施（協働）
2. 子ども会育成協議会活動の実施（協働）
3. あづみの探検隊の実施
4. ジュニアリーダースクラブ活動の実施（協働）
5. 青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援

**(2)目標（値）**

- ①関係団体との連携により、青少年の健全育成に資するイベント等の実施継続

**取組（事業展開）****1. 青少年相談員連絡協議会活動の実施（協働）**

- ・ 青少年健全育成標語表彰式、夏の交通安全教室、防犯パトロール、夢の教室事業（青少年育成東金市民会議と共催）、ウォークラリー大会（青少年のつどい山武地区大会）等の実施を支援した。

**2. 子ども会育成協議会活動の実施（協働）**

- ・ 房総子どもかるた東金大会、お化け屋敷、子ども会中央大会（ドッチビー大会）等の実施を支援した。

**3. あづみの探検隊の実施**

- ・ 長野県安曇野市の雄大な自然の中で自然体験プログラムを実施した。また、長野県安曇野市からの小学生訪問団を東金市へ受け入れ、東金市小学生（あづみの探検隊参加者）との交流事業を行った。

**4. ジュニアリーダースクラブ活動の実施（協働）**

- ・ ジュニアリーダー養成講座、サマーキャンプ、お化け屋敷の運営手伝い等の実施を支援した。

**5. 青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援**

- ・ 青少年健全育成チラシの配布、夢の教室事業（青少年相談員連絡協議会と共催）の開催を支援した。

**成果（目標値）・評価****①関係団体との連携により、青少年の健全育成に資するイベント等の実施継続****◇青少年相談員連絡協議会活動の実施**

- ・ 青少年健全育成標語募集 応募者：2, 078名（市内小学5・6年生、中学生）
- ・ 夏の交通安全教室 参加者：250名

- ・防犯パトロール 実施2回（桜まつり、YASSA フェスティバル）
- ・夢の教室事業 参加者：101名（東小学校5年生）  
※青少年育成東金市民会議との共催
- ・ウォークラリー大会（青少年のつどい山武地区大会） 参加者：180名

#### ◇子ども会育成協議会活動の実施

- ・房総子どもかるた東金大会 参加者：169名
- ・お化け屋敷 来場者：888名
- ・子ども会中央大会（ドッチビー大会） 参加者：38名

#### ◇あづみの探検隊の実施

- ・安曇野市小学生交流事業 参加者：市内小学生33名、安曇野市小学生22名
- ・あづみの探検隊 参加者：東金市小学生33名

#### ◇ジュニアリーダースクラブ活動の実施

- ・ジュニアリーダー養成講座 ジュニアリーダー参加者：延べ19名  
8月開催（サマーキャンプ運営）：9名 10月開催：3名 3月開催：7名
- ・サマーキャンプ 小学生の参加者：29名
- ・お化け屋敷の運営手伝い ジュニアリーダー参加者：13名

#### ◇青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援

- ・夢の教室事業 参加者：101名（東小学校5年生）  
※青少年相談員連絡協議会との共催
- ・青少年健全育成チラシ（インターネット利用の仕方）の配布  
市内小学4～6年生、中学生の保護者向け 約3,100部

#### 課題

主に小・中学生を対象とした各種事業を開催し、参加機会の拡充を図ることができた。青少年健全育成の啓発には、多くの世代に知ってもらうことが課題であるため、事業参加型募集だけに留まらず、事業支援ボランティアの活用も含めて検討していく。

**重点施策 5 - (3) 公民館事業の充実**

子どもから高齢者まで、幅広く生涯学習活動に取り組むきっかけの場として、様々な講座等を実施し、また学習意欲の向上と継続の場として、更には人と人とのつながりを広げることで、生涯にわたる生きがい作りの機会を提供する。

**(1)事業展開**

1. 公民館主催事業の実施
2. 貸館事業の実施
3. 公民館の改修事業の実施

**(2)目標（値）**

- ① 公民館の利用者増と利用者満足度の向上
- ② 中央公民館稼働率の増加

**取組（事業展開）****1. 公民館主催事業の実施**

- ・ 年間講座、夏休み講座、冬休み講座、単発講座の計 15 事業を実施した。主な事業内容については前年度からの継続事業のほか、新たに平成 30 年度より年間講座「ウクレレ教室」、「童謡・唱歌教室」、「歴史講座」の 3 講座を開講した。

**2. 貸館事業の実施**

- ・ 平成 30 年度においては、中央公民館は 3,672 件、地区公民館は 5,397 件(7 館計)の貸館を実施した。

**3. 公民館の改修事業の実施**

- ・ 公民館利用者が安全・安心に利用できる施設を提供するため、平成 30 年度においては中央公民館 2 階トイレ改修工事、豊成公民館トイレ改修工事、公平公民館屋根防水補修工事等、施設改修・修繕工事を引き続き実施した。

**成果（目標値）・評価****① 公民館の利用者増と利用者満足度の向上**

- ・ 利用団体数

	基準値(H26)	30 年度	R2 年度
中央公民館	73 団体	67 団体	80 団体
地区公民館	145 団体	138 団体	160 団体

- ・ 中央公民館、地区公民館ともに利用団体数が減少した。
- ・ また、公民館主催事業各事業実施後のアンケートでは満足度が約 9 割という結果であった。

**② 中央公民館稼働率の増加**

基準値(H26)	30 年度	R2 年度
42.1%	42.6%	50%

・平成 30 年度においては、基準値をわずかに上回ったものの、ほぼ横ばいの水準であった。

#### 課題

主催事業においては、平成 29 年度までに「パン作り教室」「園芸教室」等の長年継続していた事業が講師の高齢化等の理由により継続ができなくなったため廃止となった。

そのため、平成 30 年度より「ウクレレ教室」等の新規講座の開講、既存講座の講師変更や開催カリキュラムの見直しなど、参加者数を増やす取り組みを行ったものの、平成 29 年度と比較すると全主催事業の参加者数が減少した。また、利用団体数についても減少しており、これについては利用団体の高齢化による活動休止が影響している。今後は新規サークルの利用促進に努めていきたい。

しかし、主催事業の再編後の満足度は総じて高く、特に「ウクレレ教室」「童謡・唱歌教室」「絵手紙教室」では比較的安定した講座参加者数を得ることが出来た。

今後は、受講者の意見を把握し、適宜各講座のカリキュラム等の見直しを行う等の取り組みを行い、安定した参加者数の確保に努めたい。

公民館施設の修繕・改修については、安全・安心に利用できる施設を提供するため取り組んできた。しかし、一部の公民館を除き平均築 40 年が経過し、施設の老朽化が著しく進行しており、施設の改修・修繕件数や費用も増加傾向にある。

引き続き施設の修繕・改修を実施し、充実した公民館運営を図っていく。

**重点施策 5 - (4) 図書館事業の充実**

利用者の多種多様なニーズに応えられるよう図書館資料を充実させるとともに、各種主催事業を展開することを通じて、図書館利用者の増加を図る。

また、老朽化が進んだ図書館の適正な補修管理を行い、安全で良好な読書環境を整備する。

**(1)事業展開**

1. 図書館資料の充実
2. 各種主催事業の実施
3. 図書館耐震補強工事の実施

**(2)目標（値）**

- ① 図書館資料の充実、利用者の増加
- ② 図書館耐震補強工事の実施

**取組（事業展開）****1. 図書館資料の充実**

- ・ 東金市図書館資料収集基準に基づき図書等を購入し、寄贈資料取扱要領により寄贈を受け、資料除籍基準により除籍を実施した。

**2. 各種主催事業の実施**

- ・ ブックスタート、おはなし会、図書館こどもフェスタ、一日図書館員、冬のおたのしみ会、教養講座、本のリサイクル、ライブラリーカフェ等を実施した。

**3. 図書館耐震補強工事の実施**

- ・ 改修工事に向けた予算の要望をおこなった。

**成果（目標値）・評価****① 図書館資料の充実、利用者の増加**

- ・ 貸出冊数

基準値(H26)	30年度	R2年度
258,210冊	260,853冊	283,000冊

- ・ 図書を4,229冊購入し、597冊の寄贈を受け除籍が3,602冊あった。DVDは34枚購入し、3枚寄贈を受け12枚を除籍した。CDは34枚購入し、5枚寄贈を受け60枚を除籍とした。
- ・ 現在の蔵書数は152,673冊・DVD763枚・CD1,367枚

**◇各種主催事業の実施**

- |             |     |      |
|-------------|-----|------|
| ・ブックスタート    | 12回 | 327名 |
| ・おはなし会      | 51回 | 389名 |
| ・図書館こどもフェスタ | 1日  | 261名 |
| ・一日図書館員     | 10回 | 41名  |
| ・冬のおたのしみ会   | 1日  | 86名  |

・教養講座	3回	98名
・本のリサイクル (廃棄本等の無料提供)	2回	5,005冊
・ライブラリーカフェ	2日	96名

## ②図書館耐震補強工事の実施

- ・耐震補強工事に向けた予算要望をおこなったが、予算の査定において見送られた。
- ・耐震対策として、予算の範囲において、一部の書架に対して転倒防止対策をおこなった。

## 課題

昨年度より、蔵書、デジタル資料ともに増加させることができた。貸出冊数についても、基準値より若干ではあるが多く貸出することができた。しかし、電子図書やスマートホンの本格的な普及があり、貸出冊数が伸び悩んでいることから、市民のリクエストのあった本や人気のある本を積極的に取り揃え利用者を増加させていくよう考えている。

また、絵本の読み聞かせを行うおはなし会や、講師を招いての教養講座など各種事業に多くの市民に参加していただくことができた。今後も各種事業を充実させ利用者の増加につなげていきたい。

このほか、利用者が安全・安心できる読書環境の整備のため、図書館耐震補強工事の早期実施を目指す。

**重点施策 5－（5）城西国際大学との連携**

多様な市民の学習ニーズに対応するため、城西国際大学と連携し、専門的な教育資源の活用を図る。

**(1)事業展開**

- 1.公開講座の実施（協働）
- 2.生涯学習情報誌「ときめき」による情報提供

**(2)目標（値）**

- ①公開講座の参加者数の増加

**取組（事業展開）****1.公開講座の実施（協働）**

- ・教養講座 2 回及びパソコン講座 2 コースを実施した。

**2.生涯学習情報誌「ときめき」による情報提供**

- ・誌面を通して、水田美術館や大学の生涯教育センター等の情報提供を行った。

**成果（目標値）・評価****①公開講座の参加者数の増加**

基準値(H27)	30 年度	R2 年度
103 人	89 人	120 人

- ・教養講座 2 回（延べ 19 人）及びパソコン講座 2 コース（延べ 70 人）を実施した。教養講座のテーマは市民の要望を参考に毎回大学と協議し、またパソコン講座も基礎から学べるように開催した。
- ・参加者を募るため、広報とうがねへの掲載の他、講座内容を掲載したチラシを作成し、市内公共施設へと配布すると共に、区長回覧を実施し広く市民へ周知を行った。

**課題**

城西国際大学との連携はその専門性を活かし、市民のニーズを考慮し事業の実施を行った。また本市の生涯学習情報誌「ときめき」を利用して美術館や生涯教育センター等の情報提供も行っている。

事業への参加は恒常的にみられるが、その講座内容によって参加人数が左右されるため、そのニーズの分析が重要になる。

大学との連携は東金市の教育の発展のため、協働も含めて有効に活用していくことが重要であり、今後は講座の開催だけでなく幅広い分野において連携できるよう協議していく必要がある。

## 基本目標 6 歴史・文化を活用した地域力の向上を図る

【所管：生涯学習課・公民館】

### 重点施策 6－（１）芸術文化団体活動の推進

市民に対して優れた芸術文化に親しめる機会を増やし、多様な文化活動を通じて交流が深められるよう、文化活動の支援を図る。

#### (1)事業展開

- 1.文化祭（文化展・芸能大会）の開催（協働）
- 2.地区文化祭の開催（協働）
- 3.文化団体協議会の活動支援

#### (2)目標（値）

- ①まい・舞・はやしフェスタ入場者数の増加
- ②東金市文化祭入場者数の増加

#### 取組（事業展開）

##### 1.文化祭（文化展・芸能大会）の開催（協働）

- ・文化祭の参加者による「文化振興実行委員会」を中心に企画運営を図った。

##### 2.地区文化祭の開催（協働）

- ・地区公民館にて、地元の文化活動の促進及び施設の活用のため、地区文化祭を開催した。

##### 3.文化団体協議会の活動支援

- ・同団体への事業支援及び市の文化祭を協働で開催した。

#### 成果（目標値）・評価

##### ①まい・舞・はやしフェスタ入場者数の増加

基準値(H26)	30年度	R2年度
776人	808人	800人

- ・平成30年度は入場者が808人であった。参加団体は8団体（東金ばやし保存会・い若会、幸田鞆鼓舞保存会、新宿お囃子保存会、上宿おはやし保存会・青と会、家之子獅子連郷土芸能保存会、関下囃子、東金ばやし保存会（東谷会）、北之幸谷獅子連）であった。（平成28年度は入場者が749人、参加団体は9団体）

## ②東金市文化祭入場者数の増加

	基準値 (H26)	30 年度	R2 年度
文化展	1,223 人	997 人	1,300 人
文化芸能大会	1,058 人	873 人	1,100 人

- ・文化展は21の団体と2個人が参加、文化芸能大会では25の団体が参加し、入場者総計は1,870人であった。参加者による文化振興実行委員会および東金市文化団体協議会と企画運営を図り、来場者の導線確保等展示方法の工夫、正月飾り作成や川柳作成等体験コーナーの設置を行った。
- ・地区公民館の活用と活性化のため、4箇所の地区公民館にて各市民と協働で、地区文化祭を開催した。

## 課題

市内にある無形民俗文化財伝承保存団体や芸術文化団体に発表の場を設けることは、その伝統、技術、歴史の継承、そして団体・地域の活性化の観点からも重要である。例年、文化祭などへ多くの市民が参加しており、全体的に高齢化もみられるが、若年層の参加も徐々に増えている。

今後は、地区公民館活動の充実、世代間交流を推進する事業の展開などを通して、若年層に対しても魅力ある活動をアピールし、地域一体となった事業の支援を図る。

## 重点施策 6－（2）郷土の歴史と文化の保存・活用

市内に残る歴史と文化は市民の財産と認識し、その収集・保存・活用に努めることで、次代に継承することが図られ、地域への愛着と誇りを育む。また郷土芸能への支援および発表の機会を設けることで、その継承と周知普及、そして後継者育成が図られる。

## (1)事業展開

1. 関寛斎講演会及び「東金歴史展」の開催（協働）
2. 歴史講演、文化財解説板等による普及促進
3. 生涯学習情報誌「ときめき」等による文化・歴史の情報提供
4. 文化財審議会等による文化財調査
5. 地域の歴史資料の編纂業務

## (2)目標（値）

- ①地域の歴史文化を「まちづくり」に活かすため、その収集及び活動の場の創出
- ②歴史資料の保存と市民への還元を目的に、市史編纂事業に向けた資料の整理・保存

## 取組（事業展開）

## 1.関寛斎講演会及び「東金歴史展」の開催（協働）

- ・ 地元の歴史研究愛好会と協働で、関寛斎の生誕記念講演会及び歴史展示を実施した。

## 2.歴史講演、文化財解説板等による普及促進

- ・ 専門家による歴史講演を開催した。また市内に所在する指定文化財等を周知するため、解説板の設置を行った。

## 3.生涯学習情報誌「ときめき」等による文化・歴史の情報提供

- ・ 生涯学習情報誌「ときめき」や文化財ガイドブック、市ホームページ、東金市デジタル歴史館等を利用して情報発信を行った。

## 4.文化財審議会等による文化財調査

- ・ 市内に残る文化財の調査を行い、その活用を検討した。

## 5.地域の歴史資料の編纂業務

- ・ 寄贈・寄託された資料の保管・保存に努めた。

## 成果（目標値）・評価

## ①地域の歴史文化を「まちづくり」に活かすため、その収集及び活動の場の創出

- ・ 地元の歴史愛好団体と協働で、関寛斎講演会（239名参加）、平成30年10月より「東金市の戦争記念碑」（会場は文化会館常設展示室）を開催した。
- ・ 千葉県文書館出前講座を利用して歴史講演を実施（46名参加）した。また指定文化財「取子塚」の解説板を設置した。

## ②歴史資料の保存と市民への還元を目的に、市史編纂事業に向けた史料の整理・保存

- ・ 寄贈された歴史資料や新たに発見された資料を、地元の歴史研究愛好会と協働で整理し、東金文化財保管庫に保存した。

- ・ 寄贈された資料に対して、文化財審議会委員や専門家より、調査方法や意見等の指導を得た。
- ・ 生涯学習情報誌「ときめき」に文化・歴史の情報を掲載し、区長回覧及び市内外の諸施設等に年3回配布した。また、新事業として東金市デジタル歴史館による歴史資料公開を行い、東金の文化・歴史の情報発信を行った。

#### 課題

郷土の歴史文化に関わる資料および展示、講演等の事業については、地元の歴史保存団体や文化財審議会等との協働が定着し、活発になってきている。大きな課題としては、高齢化が著しく、若い世代層の事業参加が求められる。将来的に世代間交流ができるイベント・事業を通して後継者の育成を図る。

歴史資料の整理・保存は、地元の歴史研究愛好会と協働で一部行われた。歴史資料の公開・活用の方策として、東金市デジタル歴史館の公開を開始。今後はデジタル歴史館を活用して東金の文化・歴史を、市民のみならず全国に発信し、歴史資料を観光資源として活用していくことを目指す。

## 重点施策 6－（3）文化施設の利用促進

文化活動や芸術活動など多様な活動の拠点となる文化会館施設を安全・安心に活用できるよう常に整備を行い、施設環境を整え各種活動の支援を図る。

## (1)事業展開

- 1.東金文化会館の管理運営
- 2.施設の修繕、改修

## (2)目標（値）

- ①東金文化会館の指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証
- ②東金文化会館利用者数の増加

## 取組（事業展開）

## 1.東金文化会館の管理運営

- ・市民が優れた芸術文化に触れる場や市民の文化活動の発表の場を提供するとともに市民サービスの向上を図るため管理運営を指定管理者に委託した。

## 2.施設の修繕、改修

- ・文化会館施設を良好な状態に保ち、利用者が安全で快適に利用できる施設を提供するため、小ホールの手摺の設置や会議室のエアコンなどの修繕・改修等を行った。

## 成果（目標値）・評価

## ①東金文化会館の指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証

- ・指定管理者による自主事業、共催事業、興行事業などを実施した。開館 30 周年記念事業を多数行った前年度からは減少したが、良質な芸術文化事業の実施を通して市民へ文化振興の普及に努め、多くの方に利用いただいた。

## ②東金文化会館利用者数の増減

基準値(H26)	30 年度	R2 年度
141,069 人	128,890 人	145,000 人

- ・今年度の重点事業として自主事業 16 事業、共催事業 17 事業を実施し、地域住民の文化芸術の振興に努めた。

## 課題

文化会館の利用者数は興行の内容、実施日数により増減があるが、特に開館 30 周年記念として多数の大型記念事業が実施された前年度と比較し、小規模事業に留まったため利用者数は減少となった。引き続き市民に魅力ある文化施設として利用されるよう事業の開催について検討していく。

指定管理者と連携し、安全・安心な使用のための修繕、改修を行い施設の維持管理に努めているが、施設や設備の老朽化及びバリアフリー化等に対する計画的な対応が課題である。今後も事業の開催等について指定管理者と連携し、文化会館施設の有効活用を図る。

【スポーツ振興の柱】

健やかで活力に満ちたライフスタイルの支援

基本目標 7 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図る

【所管：スポーツ振興課】

重点施策 7- (1) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進

スポーツ・レクリエーションは、体力づくり・健康づくりに大切であるばかりではなく、地域間交流や世代間交流の推進、地域コミュニティの活性化などの面からも、大きな役割が期待されている。

こうした中で、「いつでも、どこでも、いつまでも」誰もが気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション体験の場を提供し、その普及・振興を図る。

(1)事業展開

1. ニュースポーツ大会の開催
2. 市民のスポーツ大会・イベントの開催
3. スポーツ教室の実施

(2)目標（値）

- ① スポレクデーの参加者数の増加

取組（事業展開）

1. ニュースポーツ大会の開催

- ・ スポレクデーを開催した。

2. 市民のスポーツ大会・イベントの開催

- ・ 市民体育祭を開催した。

3. スポーツ教室の実施

- ・ ドリーム・ベースボール「少年少女ふれあい野球教室」を開催した。

成果（目標値）・評価

① スポレクデーの参加者数の増加

基準値(H26)	30年度	R2年度
397人	656人	600人

- ・ ボッチャ、ユニカールをはじめ、10種目の初心者向けニュースポーツの紹介や体力テストを行うなど、スポーツへのきっかけづくりを行った。

◇ その他のスポーツ大会・イベント

- ・ 市民体育祭【来場者：2,000名】
- ・ 宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」【来場者：3,000名】
- ・ 秋の歩け歩け大会（養老溪谷方面）【参加者：73名】
- ・ 市民駅伝大会【参加者：83チーム 736名】

◇スポーツ教室

「ドリーム・ベースボール」において、元プロ野球選手20名による「少年少女ふれあい野球教室」を開催し、小中学生約500名が参加した。

課題

東金市民体育祭、スポレクデーをはじめ、各種スポーツ大会やスポーツ教室を開催し、多くの市民がスポーツを楽しみ交流することで、スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図ることができた。

今後は、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を目前に控え、より一層スポーツ振興を図るため、「東金・九十九里波乗りハーフマラソン」をはじめとして市民ニーズを的確に捉えたスポーツ大会やイベントを検討・実施していく。

**重点施策 7 - (2) 関係団体との連携とスポーツ指導者の養成**

スポーツ関係団体との連携を密にし、講習会等の開催によりスポーツ指導者の確保、育成を図り、指導者の資質の向上を目指す。

**(1)事業展開**

- 1.スポーツ指導者研修会の開催等による指導者の資質の向上
- 2.スポーツ指導者の有効な活用
- 3.総合型地域スポーツクラブの活用
- 4.関係団体との連携強化

**(2)目標（値）**

- ①スポーツリーダーバンク登録指導者等の有効な活用がされるよう、効果的な情報発信
- ②スポーツリーダーバンク登録者数の増加

**取組（事業展開）****1.スポーツ指導者研修会の開催等による指導者の資質の向上**

- ・スポーツ指導者講習会を兼ねた「ふれあい講演会」を開催した。【参加者：300名】  
講 師：金田 正一 元プロ野球選手  
テーマ：「私の野球人生」

**2.スポーツ指導者の有効な活用**

- ・スポーツリーダーバンク登録指導者の継続登録に向けて取り組んだ。

**3.総合型地域スポーツクラブの活用**

- ・(一社)東千葉スポーツクラブの協力のもと、各種スポーツ教室を開催した。

**4.関係団体との連携強化**

- ・体育協会、スポーツ推進委員会、(公財)東金文化・スポーツ振興財団と連携をしながら、市民駅伝等のスポーツ事業を開催した。

**成果（目標値）・評価****①スポーツリーダーバンク登録指導者等の有効な活用がされるよう、効果的な情報発信**

- ・スポーツリーダーバンク登録指導者が減少している中で、今後、有効な活用方法や効果的な情報発信について検討した。

**②スポーツリーダーバンク登録者数の増加**

- ・スポーツリーダーバンクに登録している指導者で、登録期間が3年を経過する指導者に対して、継続登録意向調査を実施し、継続登録することとなった。

**◇スポーツリーダーバンク登録者数の増加**

基準値(H26)	30年度	R2年度
18名	13名	25名

**◇総合型地域スポーツクラブの活用**

- ・(一社)東千葉スポーツクラブと連携し、ノルディックウォーキング、太極拳等の教室の場を提供した。

◇関係団体との連携強化

- ・ 体育協会、スポーツ推進委員会、(公財)東金文化・スポーツ振興財団と連携を図り、各種スポーツ活動を推進・支援した。

課題

スポーツリーダーバンクの登録者数は基準値に満たない状況である。また、登録指導者等の有効な活用が課題であることから、スポーツリーダーバンク登録指導者の育成、発掘及び活用法など広く市民へアピールし有効に活用されるような仕組みを構築することが必要である。今後、スポーツの推進を図るうえで指導者の育成は不可欠なことから、指導者講習会等への参加を促進していく。

**重点施策 7 - (3) スポーツ施設の利用促進**

スポーツ活動や健康維持活動など多様な活動の拠点となる東金アリーナ外3スポーツ施設を安全・安心に活用できるよう常に整備を行い、施設環境を整え、各種活動の支援を図る。

**(1)事業展開**

- 1.指定管理者による施設の管理運営
- 2.施設の修繕・改修

**(2)目標（値）**

- ①指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証
- ②スポーツ施設（4施設）利用者数の増加

**取組（事業展開）****1.指定管理者による施設の管理運営**

- ・あらゆる世代の方が参加できる多様なスポーツ事業を企画・実施し、生涯を通してスポーツを楽しめる機会を提供した。

**2.施設の修繕・改修**

- ・東金アリーナに屋外トイレを設置した。
- ・利用者の利便性や修繕の緊急性を考慮し、エアコンや夜間照明、スコアボード操作盤修繕等を実施した。

**成果（目標値）・評価****①指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証**

- ・自主事業【20事業 延べ参加者合計 11,029名】
  - あすなるチャレンジアップクラブ 延べ 1,722名
  - エアロビクス教室（初・中級） 延べ 1,359名
  - スポーツde合コン 28名 他
- ・共催事業【9事業 延べ参加者合計 3,423名】
  - アリーナフットサルカップ 延べ 105名
  - シニアオープン卓球交流大会 90名 他
- ・その他、後援事業、協力事業として各種スポーツ事業を実施した。

**②スポーツ施設（4施設）利用者数の増加**

基準値(H26)	30年度	R2年度
223,922人	274,782人	230,000人

## 課題

全施設合計の利用者数が、274,782人と前年比4.95%の増加となっており各種施策の成果が出ている。

一方で施設の老朽化は大きな課題である。令和元年度から順次東金アリーナのエアコンの更新を進めていくこととしているほか、野球場の防護壁の修繕等多くの要望があり、その財源について受益者負担の観点から適正な使用料への改定作業を進めていく必要がある。

**基本目標 8 2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの  
推進を図る**

【所管：スポーツ振興課】

**重点施策 8－(1) 2020東京オリンピック・パラリンピック 事前キャンプ誘致**

大会に参加する国や地域の選手団等の事前キャンプを誘致することにより、スポーツ活動や国際交流の推進、更には観光PRなど市のプロモーションを図り、もって市の活性化を目指す。

(1)事業展開

- 1.参加国、地域の事前キャンプ誘致活動
- 2.支援ボランティアの育成等

(2)目標（値）

- ①本市にとって国際理解教育等に有益な海外の参加国をキャンプ地として誘致

**取組（事業展開）**

**1.参加国、地域の事前キャンプ誘致活動**

- ・企画課及び千葉県と連携し「オリパラ CHIBA 推進会議」事前キャンプ誘致部会に、東金市、大網白里市、長柄町、リソル生命の森で構成する分科会を設置し、参加国、地域の事前キャンプ誘致を目指して活動した。

**2.支援ボランティアの育成等**

- ・今年度は、具体的な取り組みを行っていない。

**成果（目標値）・評価**

**①本市にとって国際理解教育等に有益な海外の参加国をキャンプ地として誘致**

- ・今年度は、スペイン視察団（陸上競技）の視察を受け入れた。

**課題**

これまでに多くの国の視察団が来場し、アリーナ本館、陸上競技場など詳細な視察が行われた。各国からは施設設備について大変良い評価を得たが誘致の決定には至っていない状況である。

今後も状況によって、キャンプ地としての利用の打診があることも想定されることから受け入れをできるように準備をしていく。

支援ボランティアの育成に関しては、大会組織委員会の動向を踏まえて、大会運営に必要なボランティアの募集等に協力していく。

**重点施策 8 - (2) スポーツ人口の拡大**

キャンプ地の誘致によるスポーツ熱の高まりをバネにスポーツ人口の拡大を図ることで、健やかで活力のあるまちづくりを目指す。とりわけ小・中学生から大学生を中心とする世代においてはこれを契機に国際感覚を身につけ、市民活動の活性化を促進する。

**(1) 事業展開**

1. スポーツ教室等の開催
2. 市民交流事業の実施

**(2) 目標（値）**

- ① 事前キャンプ誘致が一過性のイベントに終わらず、本市のスポーツ人口拡大の契機となるよう、継続的な取り組みの実施

**取組（事業展開）****1. スポーツ教室等の開催**

- ・「ドリーム・ベースボール」において、元プロ野球選手 20 名による「少年少女ふれあい野球教室」を開催した。

**2. 市民交流事業の実施**

- ・「ドリーム・ベースボール」において、元プロ野球選手 20 名と東金市選抜チームとの「ドリームゲーム」を実施した。
- ・サッカー J 1 松本山雅 FC の冬季トレーニングキャンプを東金アリーナに誘致し、キャンプ期間中に小学生を対象とした「サッカークリニック」を実施した。

**成果（目標値）・評価****① 事前キャンプ誘致が一過性のイベントに終わらず、本市のスポーツ人口拡大の契機となるよう、継続的な取り組みの実施**

- ・スポーツへの関心を高めるため、アスリートとの交流事業を実施した。

**(1) 「ドリーム・ベースボール」**

- ・少年少女ふれあい野球教室【参加者：500 名】

小中学生を対象とした元プロ野球選手 20 名による野球教室の開催

- ・ドリームゲーム【参加者：20 名】

元プロ野球選手 20 名と東金市選抜チーム 20 名とのドリームゲームを実施

**(2) 東金市サッカークリニック【参加者：91 名】**

小学生を対象としたサッカー J 1 松本山雅 FC の現役選手によるサッカークリニックを実施した。

**課題**

交流事業には、多くの小中学生の参加があり、スポーツ人口の拡大を図る上で一定の成果を得られたと考える。今後もトップアスリートとの交流など、より多くの市民がスポーツへの関心を高められるような事業を継続的に実施する。また、トップアスリートによるトレーニングキャンプ地としての誘致を継続し、誘致できた際には参加選手等の協力を得て、次世代アスリートの育成のための技術レッスンなどが実施できるよう要請していく。